

## 在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト

毎週水曜日18:30-20:00@北神区文化センター  
北神日本語教室を開催

生活に必要な日本語を同じ地域に暮らす日本語ボランティアから学びながら、日常生活の困りごとなども相談できる「場」を作っている。参加者は主に、技能実習生や企業で働く外国人従業員など。北区北神地域や西宮市北部には多様な背景をもつ外国人が住んでいるが散在しており会社と家の往復の外国人も多く同胞と会うこともなかなかなかった。日本語教室の参加をきっかけに同胞と知り合い母語で話す機会もあり、心が穏やかになっていく学習者もいた。コロナ禍においても、感染対策を講じながらオンラインではなく対面にこだわり活動をしている。それはコロナ禍の中で国に帰国できない辛さや行動制限の厳しさなど慣れない日本の生活の中、苦痛も感じている状況を直接会うことで話を聞き少しでも心を安らげてもらうためである。実際、緊急事態宣言解除後教室活動を再開した時は会える喜びをとびっきりの笑顔で表現してくれた。



感染対策をしながらの活動

また、地域に外国人が増加していることを受け、北区有野台地域の民生児童委員さん対象の勉強会も企画したが実施直前に新型コロナウイルス第6波の影響を受けてあえなく中止に。しかし、地域の変化を感じ取り同じ地域に暮らす外国人のことを学ぼうとくださった姿勢に感謝し、引き続き勉強会の実施に向けて考えていくつもりである。

今後も様々な業種、様々な場面で地域に暮らす外国人と出会うことも増えてくると思われる。縁あって地域に暮らすようになったが、友達がいない、相談できる相手がいないといった外国人もいるであろう。しかし、日本語教室という地域住民との接点を持つ場に参加することで多彩な人脈も築け、多様な人が同じ地域に暮らしていることも知れ、何より、日本人住民が自分たちのことを気にかけてくれているということを知れることが心強いのではないだろうか。

このような場を通して、異文化理解を促すことは「いち地域住民」として外国人を受け入れていく際に差別などを生み出さない心の勉強にもつながっているはずである。外国人が集まりやすい場所に作ることも大事であるが、小さな地域単位で少人数であっても長く細く息の長い活動ができるような環境作りも必要と思われる。その実現には、地域の理解のみならず行政の理解も益々必要になってくる。



日本語支援活動を通じたお互いの学びの場に